

第6回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 平成29年8月1日(火) 午後1時00分～午後3時00分
- 2 開催場所 千葉県庁本庁舎16階 農林水産部会議室
- 3 出席者 <構成員>
 県農林水産部水産局漁業資源課長 立岡 大助
 県水産総合研究センター次長(資源研究室長事務取扱) 鈴木 広之
 東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
 <その他>
 県関係職員10名

4 検討事項

- (1) 資源評価基準について
- (2) 資源水準の評価方法について
- (3) 平成29年度資源評価対象種の選定について
- (4) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

第6回の会議では、資源水準の評価方法及び平成29年度資源評価対象種の選定について検討した。

(1) 資源評価基準について

事務局から第1回千葉県資源評価検討会議において決定された資源評価基準について説明を行ったところ、修正等意見はなかった。

(2) 資源水準の評価方法について

今回の検討の結果、資源水準の評価方法については、千葉県の評価対象種は貝類から魚類まで幅があり、一概に扱えないことから、今回の意見を元に継続検討することとなった。構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

- ・事務局から、現行の3分割による方法から3分位又は4分位による方法に変更することを検討している旨、説明があった。
- ・構成員から、目安として評価対象期間を30年とし、4分位による評価を行うことが現実的である旨、意見があった。
- ・議長から、国が採用している評価方法について質問があり、事務局から、担当者の判断によるため、魚種によって異なる上、評価方法の採用割合についても不明であ

る旨、説明があった。

- ・議長から、漁獲のない時期が評価対象期間に含まれることで基準線が下がるため、少量の漁獲でも資源水準が高評価になることから、現行の3分割による評価でも良さそうである旨、意見があった。

(3) 平成29年度資源評価対象種の選定について

今回の検討の結果、昨年度の資源評価対象種については、今年度も引き続き資源評価を行うこととした。また、昨年度の資源評価対象候補種からダンベイキサゴ及びマダコが資源評価の対象となった。構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

<昨年度資源評価対象種>

- ・昨年度資源評価対象種については、特段の状況の変化もないことから、今年度も引き続き資源評価を行うこととした。

<昨年度資源評価対象候補種>

(ダンベイキサゴ)

- ・ダンベイキサゴについては、資源評価情報の整理がついたことから資源評価を行うこととした。

(マダコ)

- ・マダコについては、資源評価情報の整理がついたことから資源評価を行うこととした。

(その他)

- ・その他の魚種のうち、サトウガイ及びクルマエビについては、評価対象期間の設定が困難である等の理由により結論に至らなかったため、次回資源評価検討会議までに評価の実施について継続検討することとした。また、サトウガイ及びクルマエビ以外の魚種については、資源情報に不足があるなどの理由で今年度も見送ることとした。

<新規資源評価対象候補種>

事務局から平成27年の農林水産統計年報から1億円以上の生産金額がある魚種を新たに候補種とする旨、説明があった。

(タチウオ)

- ・事務局から、タチウオについては、生産金額で1億円を上回っているものの、

資源評価に必要な情報に不足がある旨、説明があった。

- ・担当者から、タチウオは銚子市と旭市におけるまき網による漁獲のほか、東京湾における定置網による漁獲もあり、東京湾のみで評価すべきか、銚子地区を含めた評価をすべきか判断が難しい旨、説明があった。
- ・資源評価については、生態等の資源評価に必要な情報が不足していることから、今年度の資源評価は見送り、引き続きデータの蓄積を図ることとした。

(イサキ)

- ・事務局から、イサキについては、生産金額で1億円を上回っているものの、資源評価に必要な情報に不足がある旨、説明があった。
- ・担当者から、イサキは内湾海域における定置網による漁獲が主であるが、回遊等に関する知見がほとんどない旨、説明があった。
- ・資源評価については、生態等の資源評価に必要な情報が不足しているため、今年度の資源評価は見送り、引き続きデータの蓄積を図ることとした。

(3) その他

事務局から今後のスケジュールを説明し、意見等は特になかった。